発　刊　の　こ　と　ば

後　藤　光　治

本書は，京都大学音声科学綜合研究部に於いて，今迄に遂行せられた諸研究を集録したものである．従って又，本書は同部の創設五周年を記念する目的で刊行せられたものでもある．

抑々，人間と動物の差異の1つは完全な言語を持つか否かにある．人間社会に於いては，意志，感情，思考が如何に頻繁に且つ円滑に言語によって行われていることか．殊に最近の社会はマス・コミの時代といわれるように，ラジオやテレビを通じて，甚だ多くの言語が間断なく我々の耳に伝えられている．このような社会的傾向に応じて，世界各国に於いて，音声言語に関する研究が澎湃として興って来た．

然し，音声言語の研究程にその分野の広範に亘るものも珍しい．即ち，音声言語は生理学，医学，物理学，工学，音楽，心理学，哲学，言語学及び教育学等が夫々関係をもつ．これを見ても，音声言語の研究を完全に遂行することは綜合大学に於いてのみ可能と思われる．我々がさきに京都大学に音声科学綜合研究部を設けたのもかような考に基づくものである．

本業績集の刊行にあたり，私は今更に過ぎ去った日のことを想起する．その主なるものは次の通りである．

1．昭和30年度　文部省の輸入器械補助金によりソナグラフ設置．

2．同年12月20日　京大耳鼻科講堂に於いて音声科学綜合研究部会の発会式を挙行．

3．昭和32年12月　同研究部会の規程制定．

4．昭和35年度　文部省の輸入器械補助金により自動周波数記録並びに同分析記録装置，用附属器械一式を設置．

5．昭和31年以降　同研究部会総会を研究発表会を兼ねて毎年12月に挙行．尚，研究連絡会議は隔週に実行．

私は，本書の一冊を，先づ故矢田部達郎教授に捧げねばならない．同教授が本研究部の創設に，将又輸入器械の設置に努力せられた功績は甚だ大きい．若し，矢田部教授がおら

れなかったならば，この研究部会の成立もその後の輝やかしい発展も望み得なかったに相違ない．

又，本書を，文部省を始め，京都大学，日独文化研究所，民主教育協会に感謝をもって捧げたい．これ等の諸機関は絶えず我々を指導助成せられた．若し，これ等の援助がなかったならば，我々の研究はかように順調には運び得なかったに相違ない．

次に，私は本書を本研究部会の役員並びに所員各位にお贈りしたい．この方々は，不自由な施設に拘らず，終始一致協力して研究を熱心に続けられた．

最後に，本書を世界各国の同学者諸君に贈りたい．我々の研究の発足は各国先進学者に負うところが大であった．今や，我々は独自の研究を遂げつゝあると信ずるので，この業績を報告することは報恩の意味からも至当なことと思う．

私は本書の刊行を慶ぶと共に，今後も所員各位が，一致団結，切磋磨厲し，量に於いても質に於いても立派な研究を修め，音声科学綜合研究部会が愈々発展して音声研究所となることを祈って結びとする．